

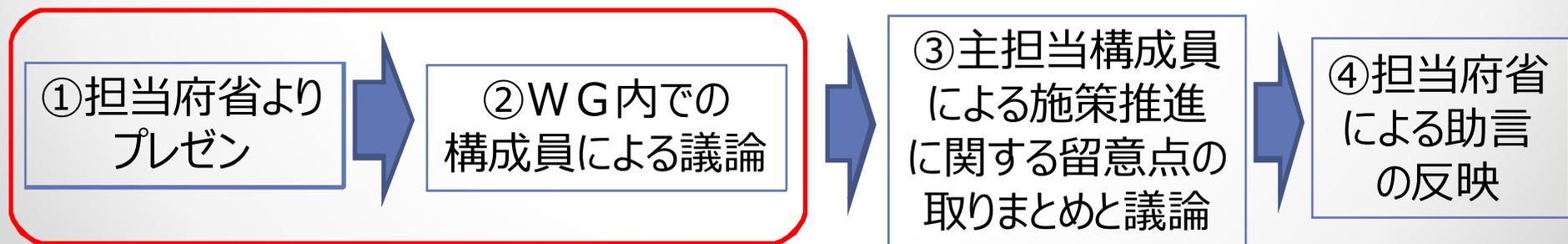
アクションプラン特定施策のレビュー について

平成27年1月26日
環境WG事務局

アクションプラン特定施策のレビューの進め方

- ◆ H27AP 特定時に審査員からのコメント等をもとに総合科学技術・イノベーション会議が指摘した「**今後の課題**（5ページ参照）」等をふまえ、連携が効果的なものになっているか、または継続施策に関しては、昨年度頂いた**H26APの助言対応**（6～8ページ参照）状況の確認も併せて実施いたします。
- ◆ 第5回以降のWGにおいて、下に示す流れで「**助言**」をとりまとめ、フィードバックを図ります。
- ◆ なお、助言は、「**評価**」ではなく、「**施策をよりよくするためにどうすればよいか**」という観点でのとりまとめをお願いいたします。

アクションプラン特定施策のレビューの流れ



関係府省への事前のお願い

- ◆ 関係各省の皆様には、以下の点を踏まえたうえでのプレゼンをお願いします。
 - 政府予算案を踏まえた施策の概要
 - 4ページに示すH27AP特定時の“今後の課題”や5～7ページに示すH26APの助言対応状況のH27APヒアリング時からの進捗状況
 - 府省連携の体制・メリット・工夫点

◆ 所要時間（予定）

連携施策名	施策番号	施策名	所要時間
気候変動対応に向けた地球環境観測の強化	環・環01	衛星による地球環境観測の強化	プレゼン5分 質疑5分
	環・文01	気候変動対応等に向けた地球観測衛星の研究開発	プレゼン5分 質疑5分
安心・安全な国民生活に向けた水質事故に備えた危機管理・リスク管理の推進	環・環02	水質事故に備えた危機管理・リスク管理の推進	プレゼン5分 質疑5分

以下 參考資料

環境技術分野におけるH27AP特定施策について（レビュー対象施策）

政策課題 解決への視 点	コア技術	連携施策名	SIP 補完/ 新た な 先導	新規 継続	施策 番号	施策名	今後の課題
持続可能な 社会の実現 に寄与する モニタリングと その利活用	地球観測 衛星等を 用いた観 測・分析・ 予測技術	気候変動対応 に向けた地球 環境観測の強 化	新たな 先導	継続	環・環 01	衛星による地球環境観測の 強化	国際貢献に向けた取り組み をより推進するために外務省 との連携や、産業界も巻き 込むことでデータの利活用ま での推進を加速させる
				継続	環・文 01	気候変動対応等に向けた地球 観測衛星の研究開発	GCOM-CやGOSAT2の開 発により気候変動メカニズム 解明への貢献と共に、気候 変動適応に関する政策や 国際的な取り組み等への貢 献を推進する
持続的な成 長に貢献す る資源循環 ・再生	リスクが懸 念される 化学物質 に対する 科学的知 見に基づ く管理・評 価手法	安心・安全な 国民生活に向 けた水質事故 に備えた危機 管理・リスク管 理の推進	新たな 先導	継続	環・環 02	水質事故に備えた危機管 理・リスク管理の推進	本施策を着実に実行し、よ り安全・安心な水環境の実 現を図ること

H26APの助言と対応①

第3回重要課題専門調査会より

施策番号	施策名	H26APの助言	対応状況 (第3回環境WG時点)
環・環01	衛星による地球環境観測の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● データ活用を意識した取組みを推進 <ul style="list-style-type: none"> － 地球観測データについて測定のみでなくその先のユーザを考え、アウトプットからアウトカムへ持っていくような検討を実施すべき。 － GOSAT後継の地球観測データは多くの人に開放され、ユーザオリエンテッドに運営されることが重要。例えば、JCM（二国間オフセット制度）のMRV（測定・報告・検証）に適用したり、さらにグローバルな観点からより評価されるために、インベントリ精度が非常に悪い途上国の精度検証についても考慮すべき。 － 観測データと地球シミュレータなどで得られるシミュレーションデータの連携、または地上データと地球観測データの結合においてJAMSTEC等との連携も検討し、観測データを様々な媒体と統合することで利用しやすい環境の構築を今後考えていくべき。 	<p>○ JCMや途上国での精度検証、または衛星からの地球観測データとシミュレーションや地上での観測データの連携・結合については従来から、国立環境研究所とJAXA、気象研究所といったところでいろいろ協力していったが、今後はさらに一段深めた連携を推進していく。</p> <p>○ GOSAT2でPM2.5を測る点であるが、二酸化炭素の測定精度向上のために大気中のダスト類を測定するセンサーの能力向上を図ることで、副次的にPM2.5を推定できる。なお、PM2.5などの微小粒子状物質については地上観測網を通じてNASA等との情報ネットワークが構築されているが、人工衛星により観測されたデータの連携については今後の対応を検討中である。</p> <p>○ これまでも文科省、JAXA、JAMSTEC等で協力し、宇宙と海洋の連携について検討を進めてきたところ。今後は、更なるニーズの把握・分析や、観測データの利活用方法等についての検討を進めていく。</p>
環・文01	気候変動対応等に向けた地球観測衛星の研究開発		

H26APの助言と対応②

第3回重要課題専門調査会より

施策番号	施策名	H26APの助言	対応状況 (第3回環境WG時点)
環・環02 (1)	水質事故に備えた危機管理・リスク管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク評価手法の見直し <ul style="list-style-type: none"> － 今回の事故は、排出者の規制・管理と水資源利用者の水質管理との連携がうまくいかず、人への曝露経路上の外的影響因子を全てカバーしたリスク評価が、有害化学物質に対して十分に行われていなかったことが要因と考えられる。 － 新たな化学物質が日々開発されている昨今において、化管法や水濁法等でのリスク評価段階で十分なリスクの検討がなされるべきで、現在のリスク評価手法の検証・見直しの検討をするべき。 ● 関係府省による一体的取組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> － 安全な街づくりを目指す観点から、関係府省や必要に応じて専門家が一体となって化学物質の排出に関連する規制（化管法、化審法、水濁法、廃掃法等）と自然資源の利用・保全に関連する規制（水資源に関しては水道法、河川法、下水道法、工業用水法等）の整合を図り、適切な監視とシームレスな法令運用による排出者管理を実現するしくみが必要。 	<p>○水質汚濁防止法に基づく排出者の規制・管理については、水道法を所管している厚生労働省など関係省庁間で連携をしてきているところであるが、今回の事故に関しては、ご指摘のとおり有害化学物質に対して十分な想定ができていなかった面もあったものと思われる。いただいた御意見を踏まえて、水濁法におけるリスク評価について、次年度以降も対象物質の存在状況調査や排出実態調査等を進めるとともに、より適切な化学物質の管理が行われるよう、制度の運用について関係者とさらに連携を行う。</p>

H26APの助言と対応③

第3回重要課題専門調査会より

施策番号	施策名	H26APの助言	対応状況 (第3回環境WG時点)
環・環02 (2)	水質事故に備えた危機管理・リスク管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の浄水処理に対する確認 <ul style="list-style-type: none"> － 今回の事案では塩素殺菌によるホルムアルデヒドの副次的発生が問題となったが、浄水処理ではカビ臭除去等を目的として、より酸化力の強いオゾンを使った高度処理が行われる場合もあり、その場合、臭素酸のほかN-ニトロソジメチルアミンも懸念される副生成物として報告例がある。問題となるような前駆物質や、後段処理（生物活性炭処理等）による副生成物の除去性等についての確認調査を検討すべき。 ● リスク管理について <ul style="list-style-type: none"> 有害物質の排出するリスクだけでなく、水道法と連携をとり水道の供給リスクも含めて考えないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 御指摘いただいた物質（N-ニトロソジメチルアミン）についても、今後、検討の必要性のある物質の一つとして対応を行う。 ○ 水道の供給リスク管理に関しては水道法との関連については厚労省とよく連携を取ってまいりたい。